

帰省

2023.11.25

我が家にも、帰省という行動が、すっかり定着した。仙台からだど、さほど帰省という気分にはならない。それが、首都圏だと、俄然、帰省というものが真実味を帯びてくる。

大学4年生になる娘の場合である。一昨年度までは、新幹線に乗ることを控え、車に乗せて帰ってきていた。これだと、帰省感は出ない。昨年度からは、新幹線を使うようになった。帰省と言えば、盆と正月である。福島駅に迎えに行く。娘が出てくるのを今か今かと待つ。すると、娘が笑顔で姿を現す。同じような光景が、あちこちで見られる。お孫さんを迎えるおじいさんとおばあさんなどは、それはそれは幸せそうである。みんな幸せそうである。

お盆も年末年始もあつという間に過ぎ去り、娘が都会へと戻っていく日がやってくる。駅に行く。新幹線の改札口で見送る。姿が見えなくなるまで、ずっと手を振る。お決まりの光景である。娘の笑顔に救われる。一度は、入場券を購入して、新幹線のホームまで行った。テレビによく出てくるシーンである。新幹線が見えなくなるまで見送る。改札口よりも、こちらの方がせつない。

就職して働いている息子の場合である。昨年は、原付バイクで帰ってきた。何時間もかけて福島にたどり着いた。無謀である。原付バイクで北海道を旅行するという。やめてほしい。家人は、心配でならない。そんな家人を見ている私もつらい。

すると、わざわざ免許を取り、やや大きなバイクとなった。今年は、真っ赤なバイクでさっそうと帰ってきた。原付バイクよりは、だいぶいいらしい。また、北海道に行くという。家人の心配は終わらない。息子の場合は、見送りが我が家の駐車場となる。何だか心配である。気分が軽くはならない。

何かの本に書いてあった。子どもというものは、年に2回は帰省して親に顔を見せるべきだと。そうすれば、陰惨な事件など起きないだろうと。親というものは、会えば子どもの変化に気づくかもしれない。だから、盆と正月は大事なのである。

これからも、我が家は、二人の子どもに、年2回以上の帰省を義務付けようと思う。もっと多いのは大歓迎である。これからも毎年、帰省が続く。そのたびに、ちょっとしたドラマが展開される。親としては、帰省中に、こんなことをしたい、どこどこに連れていきたい、これを食べさせたいとなる。それが楽しいし、うれしい。

テレビでは、毎年、帰省のニュースが流れる。高速道路の大渋滞に、乗車率150%の新幹線、見ていると大変そうだなと思う。しかし、それでも実家に戻る目的や意義が存在している。そこまでして、帰る理由がある。それが、帰省である。